

平成23年6月28日

報道関係者各位

株式会社 共立総合研究所

新入社員が評価する『最近の若者像』

株式会社 共立総合研究所（岐阜県大垣市郭町 2-25 取締役社長 森 秀嗣）は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご紹介致します。

《要約》

「草食系」、「シンプル族」、「内向き志向」、「ネット世代」といった「最近の若者像」について、世間からそのように“評価される側の新入社員”に対し、自己認識、感想等を尋ね、新入社員像を探ることとしました。

- 自己認識では、「**内向き志向**」が最もあてはまる「若者像」。
- 同世代の評価としては、「**ネット世代**」が最もあてはまる「若者像」。
- 世間の「最近の若者像」に対する感想
いずれの若者像に対しても**プラスの感想を持っている若者は少ない**。
男女別では、**男性に比べ女性の反発が強い**。

発表場所：名古屋金融記者クラブ、資料配布：大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部（主任研究員） こうけつ 纈纈 みつもと 光元 TEL 0584-74-2615】

調査概要

一般に以下のように定義されている「草食系」、「シンプル族」、「内向き志向」、「ネット世代」といった「最近の若者像」に対する自己認識、同世代の評価、世間からそのように言われることについての気持ちを尋ね、新入社員像を探ることとしました。

- ・草食系 : 恋愛や出世等に積極的ではない。
- ・シンプル族 : 消費に積極的ではなく、モノを欲しがらない。
- ・内向き志向 : 海外勤務や留学に関心を示さない。
- ・ネット世代 : 生まれながらにして IT に親しみ、現実とネットの世界を区別しない。ネットでのフラットな関係になじみ、相手の年齢や肩書きにこだわらない。

(1) 調査対象 : 岐阜・愛知・三重・滋賀県所在の企業 304 社の新入社員

(2) 調査時期 : 2011 年 3 月 18 日～4 月 7 日

(3) 調査方法 : 大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者 (1, 188 名) に無記名方式で実施

(4) 回答者数 : 1, 101 人 (有効回答率 92. 7%)

(5) 回答者属性 :

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,101名	598名	503名
平均年齢		21.1歳	21.4歳	20.8歳
最終学歴	高校卒業	33.3%	30.4%	36.7%
	専門学校卒業	6.8%	6.4%	7.4%
	短期大学卒業	5.7%	1.7%	10.6%
	四年制大学卒業	50.5%	56.3%	43.6%
	その他	3.6%	5.2%	1.8%
居住地	岐阜県	55.9%	55.9%	55.8%
	愛知県	35.2%	33.8%	36.8%
	三重県	1.6%	2.0%	1.0%
	滋賀県	2.6%	3.4%	1.6%
	その他	4.9%	4.9%	4.8%
業種	建設業	6.7%	7.5%	5.7%
	製造業	47.1%	54.7%	38.0%
	卸売業, 小売業	15.5%	12.3%	19.1%
	サービス業	7.7%	6.5%	9.1%
	その他	23.0%	19.0%	28.1%

新入社員が評価する『最近の若者像』

(1) 「最近の若者像」に対する自己認識

「(あなた自身は)『最近の若者像』に当てはまると思えますか(それぞれ該当するものを1つ選択)」と尋ねたところ、それぞれの回答は図表1のとおりであった。

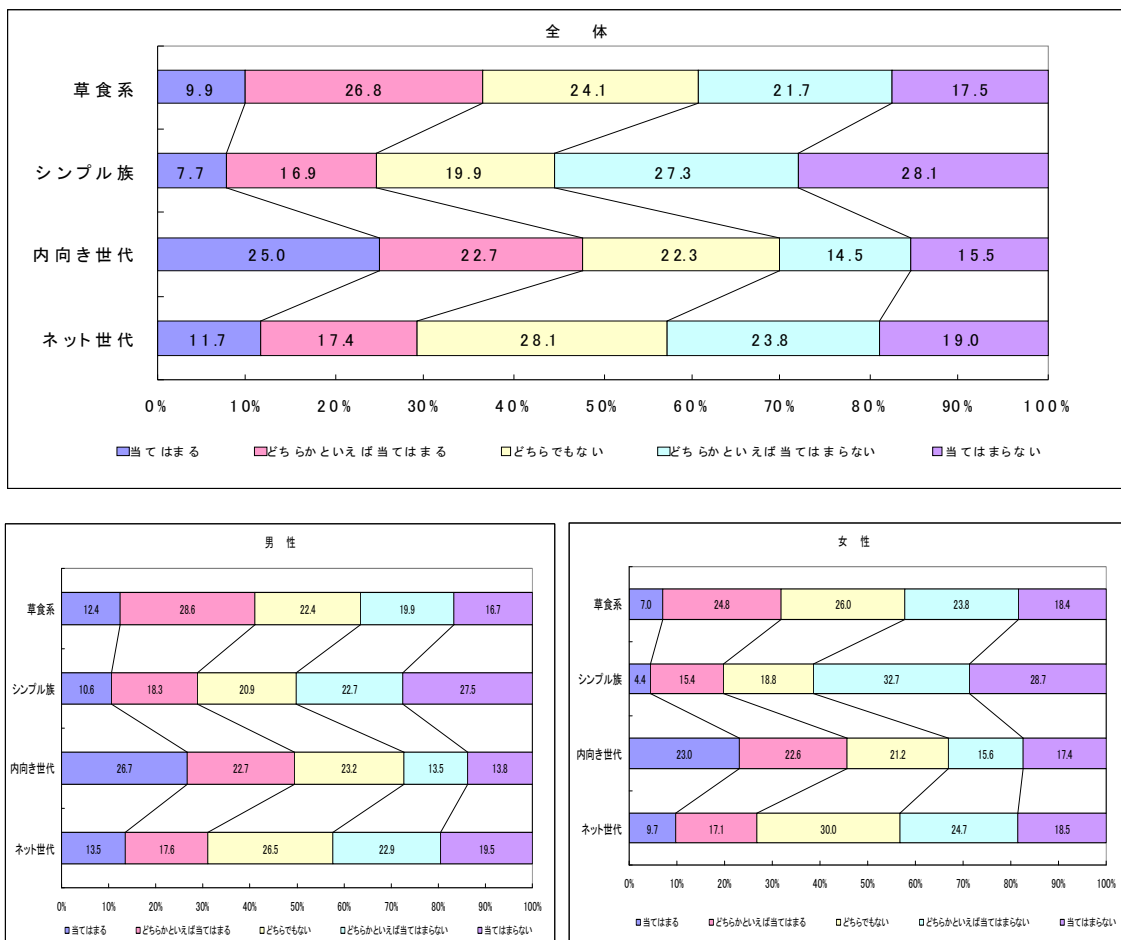
“当てはまる”、“どちらかといえば当てはまる”を合わせた回答は「内向き志向」が最も多かった(合計回答率47.7%)。

一方、“当てはまらない”、“どちらかといえば当てはまらない”を合わせた回答は「シンプル族」が最も多かった(同55.4%)。

「最近の若者像」のうち、自己認識としては「内向き志向」が最も当てはまり、「シンプル族」が最も当てはまらないようだ。

男女別に見ると、いずれの「若者像」に対しても“当てはまらない”、“どちらかといえば当てはまらない”の合計回答率は女性の方が高く、「最近の若者像」が“当てはまらない”という認識は女性の方が強いようだ。

図表1 あなた自身「最近の若者像」に当てはまると思えますか？



(2) 同世代の評価

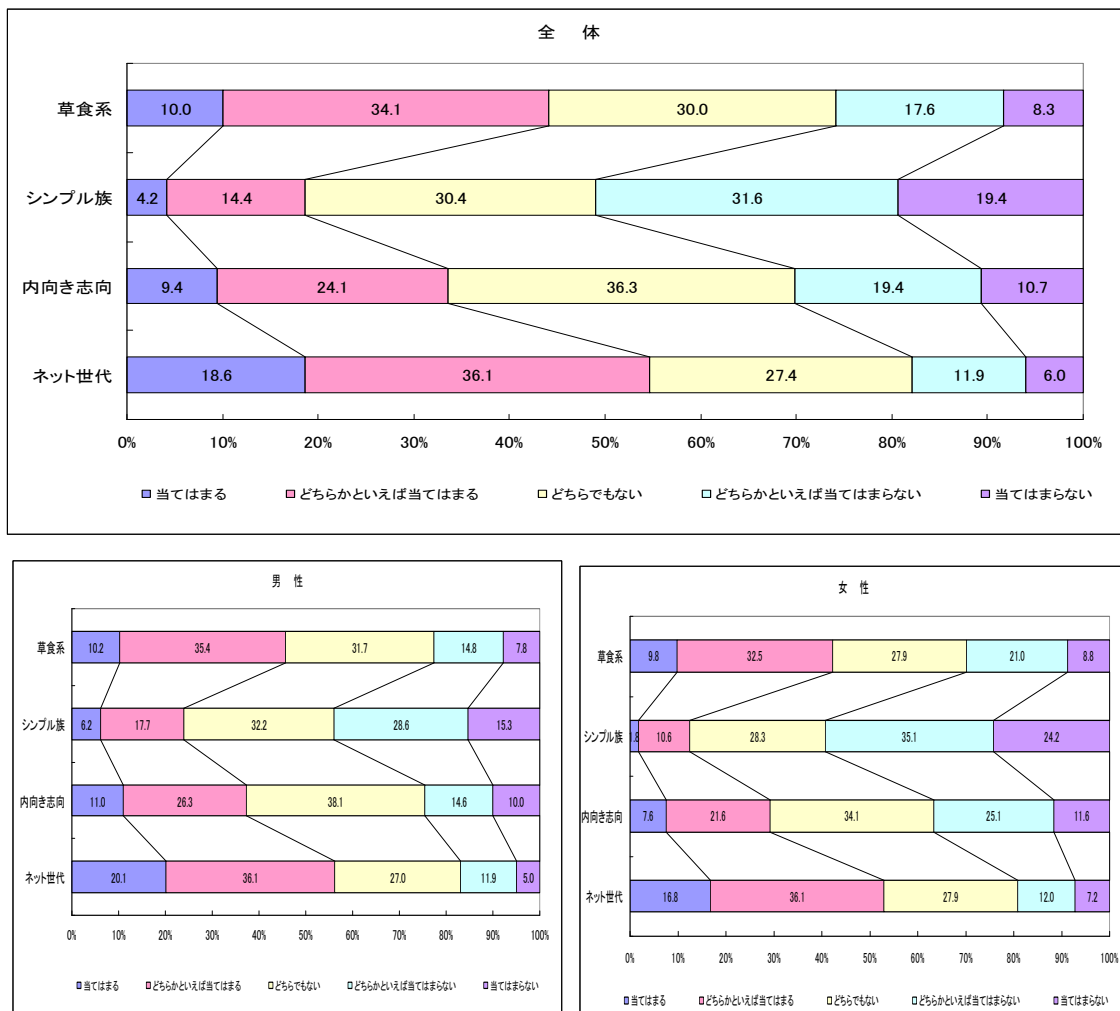
次に、「あなたから見た同世代が『最近の若者像』に当てはまると思えますか（それぞれ該当するものを1つ選択）」と尋ねたところ、それぞれの回答は図表2のとおりであった。

前述の自己認識と同様、同世代の評価としても、「シンプル族」が最も当てはまらない若者像であるようだ。

一方、自己認識として最も当てはまる若者像は「内向き志向」であったが、同世代の評価としては、「ネット世代」が最も当てはまる若者像であった。「最近の若者像」について、自己認識と同世代の評価では若干の差異があるようだ。

男女別に見ると、自己認識と同様、“当てはまらない”、“どちらかと言えば当てはまらない”の合計回答率は女性の方が高く、同世代の評価においても、「最近の若者像」が“当てはまらない”という認識は女性の方が強いようだ。

図表2 あなたから見た同世代は「最近の若者像」に当てはまると思えますか？



(3) 世間の「最近の若者像」に対する感想

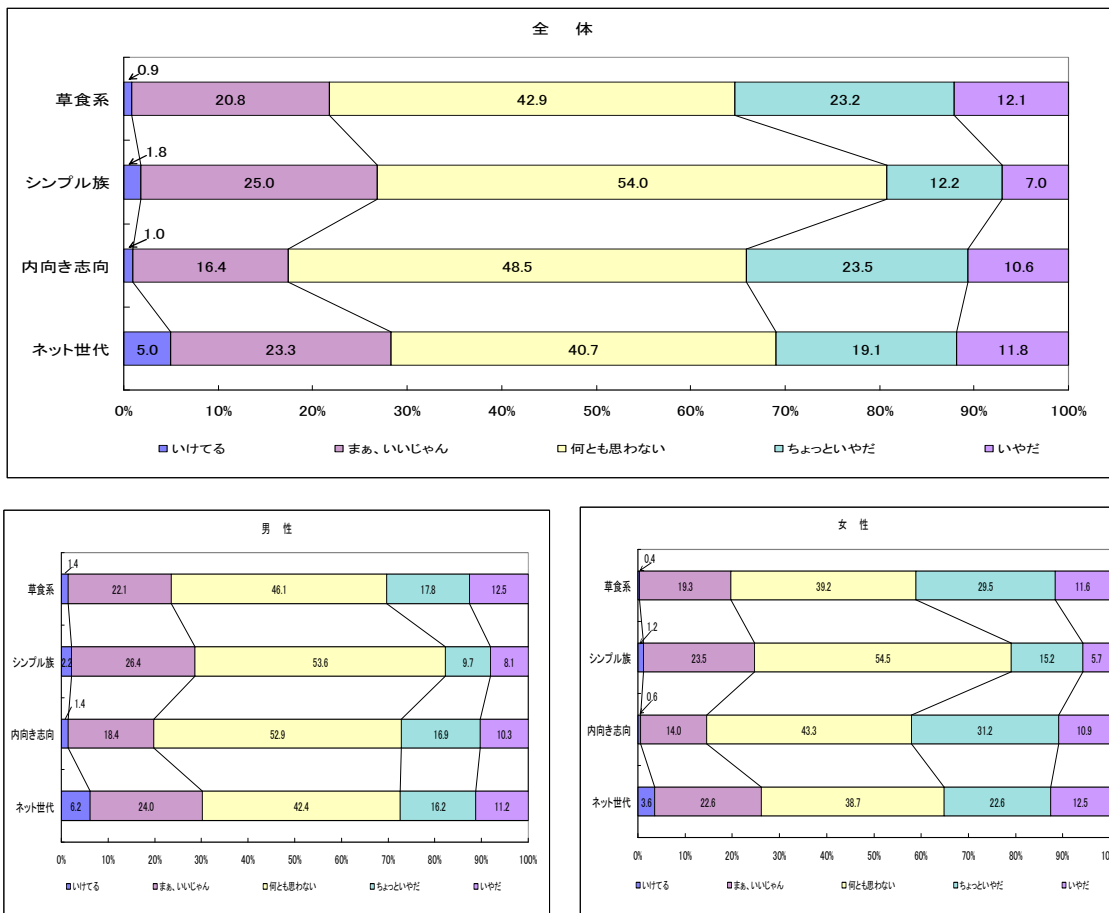
最後に「自分たちの世代が『草食系』『シンプル族』のように言われることに対してどう思いますか（それぞれ該当するものを1つ選択）」と尋ねたところ、それぞれに対する感想は図表3のとおりであった。

“いけてる”と評価している割合はいずれも5%以下であり、いずれの若者像に対してもプラスの感想を持っている若者は少ないようだ。

自己認識と世間の「最近の若者像」に対する感想とを対比して見ると、自己認識では“当てはまる”との回答が最も多かった「内向き志向」であるが、世間から「内向き志向」と言われることに対しては“いやだ”、“ちょっといやだ”という回答（合計回答率34.1%）が「草食系」（同35.3%）に次いで多く、自己認識はあっても、世間からそう言われることには反発があるようだ。

なお、男女別では“いやだ”、“ちょっといやだ”の合計回答率はいずれも女性の方が高かった。世間からの評価に対する反発は女性の方が大きいようだ。

図表3 自分たちの世代が「草食系」等と言われることに対してどう思いますか？



(4) 小括

「草食系」、「シンプル族」、「内向き志向」等といった「最近の若者像」が生まれてきたのには、交際している新成人の減少、20代が所有する乗用自動車の比率の低下、海外留学者数の減少等のデータが背景としてあるようだ。

しかし、「最近の若者像」が生まれた背景にある“消費しない”、“恋愛しない”、“内向きである”といった傾向は若者に限ったものであろうか。

一例をあげれば、給与所得者の平均給与が10年以上減少傾向にあるなか、消費しなくなったのは若者に限った話ではない。かつての若者と比較し、「最近の若者は“〇〇しない”」と論じたくなる気持ちも理解できるが、若者のみならず社会全体の変化に目を向けることも必要と言えるのではないだろうか。

以 上